

地方自治体における運用に向けた課題の整理及び提言

研究代表 菅野 拓（大阪市立大学・大学院 文学研究科人間行動学専攻 地理学教室 専准教授）

研究要旨：

本研究では、実証実験を踏まえ、D-VICS についての妥当性、有用性の検討から、地方自治体における運用に向けた課題の整理及び提言を行う。

研究は4回の全体会議を開催し、研究者、自治体（福知山市、別府市、伊那市、長野県、鳥取県、鳥取県、熊本市）、厚生労働省、内閣府で意見交換を実施しながら D-VICS の開発を進めた。平時から災害発生後までのフェーズにおける D-VICS の実効性の検討、課題の抽出を行うために、実証実験を3回実施した。これらの結果を踏まえ、D-VICS の課題を整理し、地方自治体における運用に向けた提言をまとめた。

D-VICS は研究段階における有効性が確認でき運用が期待される結果となった。

D-VICS は、システム単体として見た場合、研究段階を脱したと考えられるため、上記課題や提言を反映させた運用が期待される。その際、①実証実験で明らかになった課題等を要件に反映させる、②実際の状況（平時～災害発生～支援）を想定した利用方法や、総合防災訓練における利用などを想定した、より細やかなマニュアルを作成する、③本システムの活用について、市町村等自治体では、事前入力と個別避難計画への活用、収集した情報の対応フロー、システムのオペレーターを含む要員確保など、地域の実情に応じた具体的な対応についてモデル事業などを活用しながら整理・検討していく、といったことが求められる。

A. 研究目的

実証実験を踏まえ、D-VICS についての妥当性、有用性の検討から、地方自治体における運用に向けた課題の整理及び提言を行う。

B. 研究方法

研究は4回の全体会議を開催し、研究者、自治体（福知山市、別府市、伊那市、長野県、鳥取県、鳥取県、熊本市）、厚生労働省、内閣府で意見交換を実施しながら D-VICS の開発を進めた。平時から災害発生後までのフェーズにおける D-VICS の実効性の検討、課題の抽出を行うために、実証実験を3回実施した。これらの結果を踏まえ、D-VICS の課題を整理し、地方自治体における運用に向けた提言をまとめた。

（倫理面への配慮）

特に該当しない。

C. 研究結果

D-VICS は研究段階における有効性が確認でき、運用が期待される結果となった。

D-VICS と内閣府防災のシステムとのすみわけについて、入力側（住民、自治体）が混乱しないようなシステム設計について実証実験等を通じて意見を収集整理した。

運用に向けた課題及び提言として、平時の活用方法（個別避難計画の作成ツールとしての使用や孤立対策の糸口のツールとしての運用）、D-VICS の普及方法や代行入力実施時の代行入力者毎の入力時の課題等の洗い出しと解決策の検討等を取りまとめた。

D. 考察

D-VICS は、システム単体として見た場合、研究段階を脱したと考えられるため、上記課題

や提言を反映させた運用が期待される。その際、①実証実験で明らかになった課題等を要件に反映させる、②実際の状況（平時～災害発生～支援）を想定した利用方法や、総合防災訓練における利用などを想定した、より細やかなマニュアルを作成する、③本システムの活用について、市町村等自治体では、事前入力と個別避難計画への活用、収集した情報の対応フロー、システムのオペレーターを含む要員確保など、地域の実情に応じた具体的な対応についてモデル事業などを活用しながら整理・検討していく、といったことが求められる。

E. 研究発表

1. 論文発表
特になし

2. 学会発表
特になし

F. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
特になし
2. 実用新案登録
特になし
3. その他
特になし